

編集後記

埼玉県環境科学国際センター報は、県民並びに関係諸機関にセンターの活動を紹介するための情報源としてだけではなく、環境情報の収集・発信のための媒体としての役割があります。センターは平成12年4月に活動を開始しており、本報（第26号）は、26年度目に当たる令和7年度の活動を記録したものです。

令和8年3月に当センターの生態園が、環境省、農林水産省、国土交通省の三省から「自然共生サイト」に認定されるという、大変喜ばしい出来事がありました。昭和30年代の県東部地域の里山をビオトープ手法により復元したこの生態園は、これまでも野外環境学習や生物多様性保全の拠点として大きな役割を果たしてきましたが、今回の認定により、長年にわたる適正な管理と生態系の保全・活用に対する高い価値があらためて認められました。職員一同、これを深く誇らしく感じております。

このたびの認定と日頃の生態園の運営・活性化に多大な貢献をされたのが、総務・学習・情報担当の宮川武明会計年度任用職員です。樹木医でもある宮川さんは、専門的な知見を活かして将来を見据えた管理計画を作成し、現場の先頭に立ってその推進に尽力されました。日々のきめ細やかな管理作業と熱意が実を結び、今回の自然共生サイト認定という素晴らしい成果につながったといえます。

一方、研究所におきましては、埼玉県環境科学国際センター研究所中期取組方針に基づいて着実に調査・研究を実施しております。各研究担当がそれぞれの専門性を発揮するとともに、外部機関との共同研究や行政支援を積極的に展開し、着実な成果を積み重ねてまいりました。

今後とも「日本一暮らしやすい埼玉県」の実現を目指し、多様化・複雑化する地域環境課題の解決に向けて時代に即した業務を進めていく所存です。

本報は、印刷原稿の作成までをセンター全職員の参加により行ったものですが、編集方針・内容の決定、具体的作業に当たっては、下記の編集委員会がその任を負っています。

令和8年9月

編集委員一同

〈編集委員会〉

大塚 宜 寿（研究推進室長）	三 輪 誠（研究推進室）
長 谷 隆 仁（資源循環・廃棄物担当）	黒 木 唯（事務局）
井 上 美 治（研究企画室）	岡 本 慎 吾（生物多様性保全担当）
河野なつ美（温暖化対策担当）	村田浩太郎（大気環境担当）
安 野 翔（自然環境担当）	松 本 利 恵（化学物質・環境放射能担当）
池 田 和 弘（水環境担当）	濱 元 栄 起（研究推進室）
藤 原 文 子（事務局）	星 野 正 幸（生物多様性保全担当）
茂 木 守（土壌・地下水・地盤担当）	

〈協力者〉

大澤千恵子（研究企画室）

山 崎 正 則（事務局）

埼玉県環境科学国際センター報

第26号 令和7年度
令和8年9月30日発行

発行：埼玉県環境科学国際センター